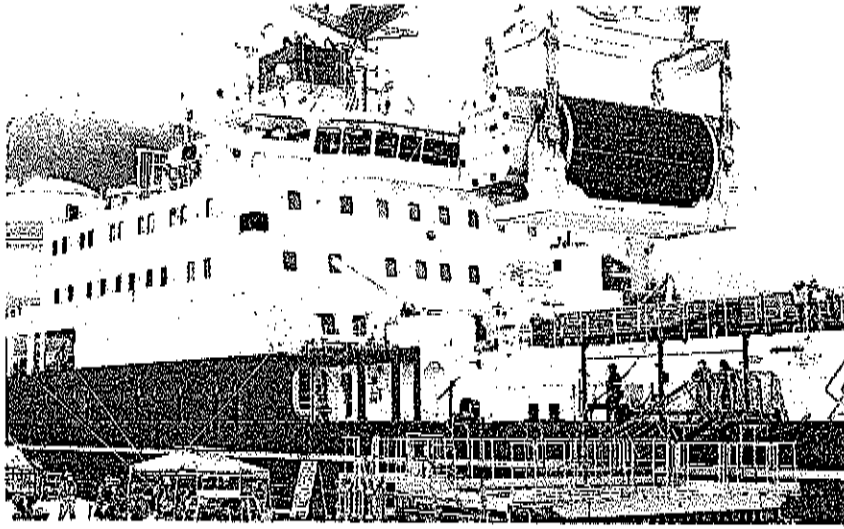


高浜原発にMOX搬入

4年ぶり16体、4号機で使用予定

高浜町の関西電力高浜原発で使うプルトリウム・ウラン混合酸化物(MOX)燃料を積んだ輸送船が十七日、同原発に到着し、十六体を構内に運び入れた。二



船からクレーンで降揚げされるMOX燃料の入った輸送容器。17日、高浜町の関西電力高浜原発で(代表撮影)

〇一年の東京電力福島第一原発事故後、同原発への搬入は一七年九月の高浜4号機用に続き三回目。通算では四回目。

によると、今回届いたMOX燃料は高浜4号機での使用を予定しており、装填時期は未定。

MOX燃料は関電が原子燃料工業と契約を結び、委託を受けたフランスの核燃料会社オランソ社が製造した。船は九月にフランスを出港。十七日午前八時ごろ高浜原発に到着し、午後から燃料の入った輸送容器が陸揚げされた。原発周辺には早朝から反原発の市民団体の約二十人が集まり、MOX燃料搬入に抗議した。

MOX燃料は、使用済み核燃料を再処理し、プルトリウムを取り出してウランと混ぜて再利用する「核燃料サイクル」の一環として進められている。現在、プルサーマル発電をしている原発は国内で高浜3・4号機と九州電力玄海原発3号機(佐賀県)の三基。四国電力伊方原発3号機(愛媛県)でもプルサーマル発電の実績がある。

現在、高浜3・4号機でMOX燃料を使用してプルサーマル発電をしている。今回の搬入で同原発構内のMOX燃料は計六十四体となった。関電